

東北支部 B 講座郡山講座が開催されました

去る1月25日、郡山市市民プラザビッグアイにて東北支部 B 講座が開催されました。
その模様をお伝えします。

<特別講演 1 >

演題：「慢性疾患のケア」 講師：よりみち家庭医療クリニック 院長 遠藤芽衣先生

よりみち家庭医療クリニック院長の遠藤 芽衣先生に、「慢性疾患のケア」という演題でご講演いただきました。

高齢化が加速する現代において、慢性疾患とどのように向き合い、日々の生活を支えていくかは医療界全体の喫緊の課題です。遠藤先生からは、家庭医の視点から地域に根ざした活動内容とともに、プライマリ・ケアにおける慢性疾患管理のについてお話いただきました。



講演の冒頭では、「患者中心の医療」の重要性が強調されました。単に病気を見るのではなく、患者自身の生活背景や価値観に寄り添い、多職種が連携して「日々のケア」を継続することの意義を再確認する機会となりました。また、糖尿病診療における血糖・血圧コントロールの重要性についても詳しく解説いただきました。高血糖への配慮や感染リスクへの対応など、鍼灸施術における具体的な注意点について、医学的エビデンスに基づいた貴重なアドバイスをいただきました。

遠藤先生の温かなお人柄が伝わるご講演は、日々の臨床現場で慢性疾患に携わる私たちにとって、明日からの施術に直結する非常に有益な内容でした。(座長：益子勝良)

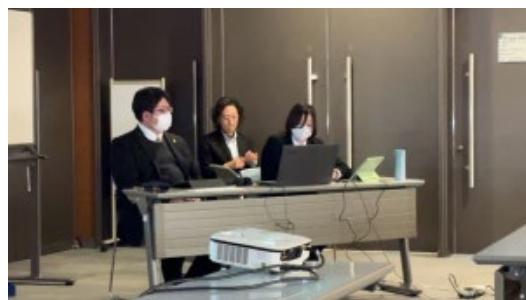
<特別講演 2 >

演題：「プライマリ・ケア（地域・家庭医療）としての鍼灸」 講師：一寸法師ハリ治療院 院長 中沢 良平先生

「プライマリ・ケア（地域・家庭医療）としての鍼灸」という演題でご講演いただきました。



講演は昨年ドラマになった「19番目のカルテ」第1話が画面いっぱいに映し出され、「コミック・メディケーション（中沢先生の造語、とのこと）」から始まり、参加者が一気に講演に引き込まれていきました。



地域医療や家庭医療における鍼灸に役割の一つとして、日常臨床でよくみる腰痛や肩こり等の症状が時にレッドフラッグ（命に関わるようなもの）であることがあります。鍼灸師であっても命に関わる症状を抱えた患者に出会う可能性があることについて、これまでの臨床経験を踏まえてわかりやすく説明していただきました。毎日の臨床の場でよくみる症状だからと流してしまうのではなく、患者の話を傾聴し、少しの変化を見逃さないこと、それと同時に必要に応じて他の医療へと連携や協働の必要性

を感じました。

一般に総合診療医（医師）と私たち鍼灸師はそれほど深く関係するものではないと考えがちです。しかし中沢先生のお話を元に角度を変えて見てみると私たちも同じような立ち位置におり、地域医療や家庭医療の一環として重要性を増していることがわかります。今回の講演はそれを強く感じさせてくれたように思います。

なお、本講演は福島医療専門学校鍼灸科2年松本祐典さん、村上春乃さんを座長として行いました。事前に中沢先生より「プライマリ・ケア」についてレクチャーしていただき、理解を深めた上で自信を持って座長を務めてくれました。

（座長：手塚清恵）

<特別講演3>

演題：「月経困難症のプライマリ・ケアとしての鍼灸治療」 講師：東北支部長 三瓶真一先生

本演題は、全日本鍼灸学会理事・東北支部長の三本演題は、全日本鍼灸学会理事・東北支部長の三瓶鍼灸院院長の三瓶真一先生にご講演いただきました。

先生は JISRAM（日本生殖鍼灸標準化機関）会も歴任しており、長年の臨床経験に基づいたお話をしていただきました。冒頭は、月経困難症の社会的影響が紹介されました。月経困難症とは生理痛とは違い、生理のたびに日常生活や仕事に大きな影響が出てしまうことを指しており、働く女性では社会的損失が大きいものとお話されました。ですが月経随伴症状で医療機関を受診している方は2割程度にとどまっていることが現状であり、一方で鍼灸院には肩こ

りや腰痛をきっかけに来院される女性も多く、気軽に相談しやすい身近な医療の入り口になると強調されました。プライマリ・ケアとして鍼灸院は、「医療機関につながる視点」も大切だとお話しされました。



後半は、三瓶真一先生が月経困難症および月経に伴う不調への治療と対応についてお話しされました。先生が施術する内容を動画で確認し、学生参加も多い中、丁寧に説明していただきました。会員からより実践的な技術の質問もあり盛況でした。実際の臨床施術を拝見できることは、明日から使える技術でありとても有用な情報でした。

（座長：真壁佳宏）